

昭和45年度 和歌山県文化功労賞

やま ぐち まご かず
山 口 孫 一

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：明治41年

◎業績及び経歴

昭和7年東京農業大学農学部卒業後大日本除虫菊株式会社役員を経て、昭和24年株式会社紀陽銀行取締役、同30年頭取に就任して現在に至っている。この間、昭和17年に従七位勲六等に叙せられ、同41年には産業功労者として和歌山県知事表彰、同44年には金融関係功労者として藍綬褒章を受章するなど本県産業に対する貢献が大きく、また美術についての造詣が深く、多年美術品の蒐集、研究を続け、昭和23年には研究の成果を「古美術鑑賞録」および「近世美術鑑賞録」にまとめて刊行され活潑な文化活動を続けている。

昭和33年和歌山県地方文化研究会が発足するとその初代会長に就任。以来社団法人和歌山県文化財研究会に改組後も会長として、講演会、研究発表会、展覧会の開催等を通じ、県民一般の文化財に対する認識を高め、啓蒙と普及につとめた功績は極めて大きい。さらに埋蔵文化財の発掘調査事業も実施して調査研究の成果を挙げるとともに、文化財の保護に尽力する功労も大いに讃えられている。

また、昭和43年以来「紀伊風土記の丘」建設委員会の副会長として特別史跡岩橋千塚古墳群を中心とした史跡公園「紀伊風土記の丘」の建設を推進して今日に及んでおり、昭和45年1月からは和歌山県文化財保存会々長としても、文化財の保存事業を着々と推進させ、本県文化財関係の中心的存在として、文化の振興に貢献されること極めて大きいものがある。